

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月31日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674800117
法人名	有限会社 ファースト・ケア
事業所名	グループホーム いこい
所在地	鹿児島県出水市高尾野町大久保1432-1 (電話) 0996-82-5537
自己評価作成日	平成31年 2月 15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者様が笑顔で楽しく暮らして頂けるよう、職員は楽しい雰囲気作りに努めています。自宅のように自由で本人流の暮らしが続けられるように、ご家族様と連携をとっています。
- ・ホームの中庭に畑を作り、旬の野菜を収穫、料理の材料となり、食事に提供することもあります。季節を感じられるよう、外出やドライブの機会を増やしています。
- ・実習生やサマーボランティアを受け入れ、ホームも利用者様も地域の一員として日常的に交流しています。利用者様、ご家族様の交流の機会として、年1回家族会を開催しています。ご意見、要望など聴ける貴重な時間になっています。
- ・利用者様の意志や希望に添える介護を目指しています。

出水市高尾野町の幹線道路から入り、閑静な地域に位置している。施設内には同法人のディサービスが併設され、災害時の協力体制他行事を合同で行っている。ディサービスとは利用者同士が行き来し、利用者同士の交流も図られている。開設して17年が経過し、地域密着型サービス事業所として地域住民には十分に周知され、日常的な交流が密に図られ、地域の社協主催のボランティアパーティーには全員が参加したり、日常の散歩時に挨拶を交わしたり、旬の野菜の差入れを頂くなど地域の一員として十分に交流している。

管理者や職員は開設時からの理念である法人理念とホームのケア理念を基に、利用者の意欲や意思を尊重し、それぞれの利用者に応じたケアの実践に取り組んでいる。管理者は職員とは日頃から、何でも意見が言合える雰囲気作りに努め、申し送り時や職員会議で意見要望を把握し、必要に応じて個人面談にも配慮しながら、運営やサービスの向上に反映させている。中庭を囲む回廊式の造りや、ゆっくりくつろげるソファ、長年飼っている犬が居る事で利用者には癒しの空間や場となっている事等、自宅の様に自由に暮らせる事への支援を惜しまないホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全職員で法人の理念とホームのケア理念を掲げている。玄関、食堂、トイレ、休憩室などに提示して日々のケア実践に取り組んでいる	開設時に作成した理念で、法人理念とホームのケア理念がある。ケア理念は、定期的に見直し、理念を基のケアについては職員で話し合っている。ホーム内に掲示する事で、周知し振り返りに繋げている。職員はそれぞれの利用者に応じて、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーに定期的買い物へ出かけたり、地域のボランティアパーティーにも全員参加している。夏祭りにも参加している。	地域の社協主催のボランティアパーティーには、声がかかり全員で参加している。入所前の地域の敬老会へ出席する利用者もいる。日頃から近隣への散歩や買い物時には挨拶や会話を交わしたり、農産物の差入れも頂いている。施設見学や職場体験・実習生も積極的に受入れている。また地域の認知症の相談窓口になっているなど、日常的に円満な交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	小・中・高校生のサマーボランティアの受入れや実習生の受入れを実施して認知症の理解に取り組んでいる。ラン伴へも参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政関係者・自治会長・民生委員・家族代表・利用者代表・当施設関係者の参加を得て、2カ月に1回開催している。地域の情報や災害対策のアドバイスもありサービス向上に生かしている。	定例化された会議は、2ヶ月毎に開催している。ホームの現状や行事・利用者の状況・事故及びヒヤリハット事例等を報告し、意見交換を行っている。時には研修報告も行っている。協議された内容は職員に周知し、業務の改善やサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の現状報告、相談や情報交換を行い、協力関係を築ける様に取り組んでいる。	市担当者には、介護保険の認定や各種制度の手続き、ケアや運営の相談を行い助言・指導を受けたり、日頃から協力関係は築かれている。市主催の会合や研修会には積極的に参加し、業務やサービスの改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し定期的に勉強会を行っている。施設外研修に参加し、職員会議や勉強会などで話し合いを持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束や高齢者虐待については、定期的に研修を行っている。適正化を図る会は運営推進会議の中で行い、職員への周知も行っている。昼間は施錠は行わず、外出傾向の方には職員は見守りや対話・寄り添いに努めている。言葉遣いは不適切とならないよう日頃から心がけ、ケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政機関協力のもと外部研修を実施した。当施設全事業所参加し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政機関協力のもと、外部研修を実施、学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約には十分な時間が取れるように配慮している。解りやすい言葉で丁寧な説明を心がけている。一つ一つの項目ごとに不明な点等確認しながら行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回の家族会の際に意見や要望など伺っている。また面会時にも話しを伺える状況を作り、ご家族の考えや気持ちを職員会議の場でも報告し共有している。</p>	<p>日常の会話や表情・しぐさで利用者の意見・要望の把握に努め、家族からは面会時や運営推進会議また家族会などで、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気づくりに努めて把握している。得られた意見・要望等は職員全員で協議して改善に取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの意見は随時聴けるように管理者、主任が立ち対応している。職員会議などで情報共有し、改善に向けて実施している。スタッフ間の申し送りノートも活用している。管理者会議でも意見を出し合い共有している。</p>	<p>管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、ケアの中や意見交換の場となる毎月のミーティング時・申し送り時の中で、意見・要望・提案を把握し改善に取り組んでいる。資格取得には、交通費や教材を提供し支援している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>統括が常勤しており、必要に応じ管理者は相談し、代表者に伝え報告の体制としている。働きやすい職場づくりに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画を立て、施設内・外研修参加の機会を設けている。研修報告で情報の共有を図っている。職員への周知を早くするため、研修案内をロッカールームに掲示し参加しやすい体制をとっていて希望する職員も増えた。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>出水川薩支部のグループホーム連絡協議会主催の研修会に参加し、他施設の職員との交流を交えお互いサービス向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前にフェイスシート、基本情報等で家族構成や生活歴、現在の生活状況、ADLなど把握するように努め、ご本人の興味あることや好きな物など本人やご家族にも伺いながら本人に合った声かけ等行い何でも話して下さる様な関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前までのご家族様の苦労や経緯について話を聴くようにしている。また、面会時にご本人の様子などお話ししたり、ご要望など聴く機会を作り信頼関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>居宅の担当ケアマネージャーや本人、ご家族の相談内容からできる限り対応について検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護するという一方的な意識ではなく介護させて頂くという気持ちや共に寄り添い家族のような関係を持てるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の思いや様子を極め細かく伝え、職員はご本人と一緒に支える家族と同様な思いで支援したいとを伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で暮らす馴染みの知人の方が訪問されたり、ご兄弟に会いに行ったり地域の方の繋がりが切れないよう工夫している。デイサービス利用者様との交流を継続している方もいる。	入所時の聞き取りや、家族からの利用者の情報を把握し、家族の協力で馴染みの美容室や墓参り・一時帰宅を支援している。地元からの入所者が多く、近隣に買い物に行き知人と会う利用者もいる。電話や手紙の取次ぎも行うなど、利用者の状況に応じた取り組みを工夫し、関係が途切れぬよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分、感情で日々変化する方は、注意深く見守り利用者様同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会や写真を届けたり折にふれてご家族への電話での状態を伺ったりしている。又、在宅サービスを受けている方については、居宅支援事業者と連絡を取り合うこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とスタッフ間の言葉に加えて日々の会話からご本人の思いを把握するよう努めている。なるべくご本人の立場に立って考えるようにしている。	本人の思いや意向を日頃の会話や表情・しぐさから把握し、その人らしい生きがいのある暮らしの支援に努めている。把握した内容は、申し送りノートの活用で職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族などからアセスメントを行い、これまでの暮らしについて把握するように努めている。把握した情報は、スタッフ全員が共有しケアに生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者様一人一人の状態に目を向け、どんな事をしたか1日の出来事を記録し、新しい発見について、スタッフ全員が共有しケアに生かすようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー1人の意見にならないように職員会議等でスタッフとケアについて話したり、ご家族本人と話をしながら計画を作成している。	本人と家族の意見・要望や主治医の意見等を把握し、3ヶ月毎のモニタリングを行っている。職員は担当制となっており、職員の意見を基に、利用者主体の介護計画を作成している。状況の変化があればその都度話し合い見直し、実状に即した計画に変更している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアの実践などを通し、スタッフ間で情報を共有しながら見直しを図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>必要性に応じて、病院受診や外出などの支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のボランティアパーティーに参加している。クリスマス会、敬老会などで地域の方を招き、余興をして頂き地域資源を活用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人、ご家族から意見を伺った上で主治医を決定し定期的受診して頂いて。必要時は、かかりつけ医と連絡を取り合い適切に医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者の病歴等を把握し、本人や家族が希望する医療機関での受診を家族と協力し支援している。皮膚科や眼科は家族や職員が同行している。緊急時は主治医からの指示を基に、適切な医療が受けられる様支援している。協力医療機関は24時間の医療連携の体制が構築され、利用者や家族の安心に繋がっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持っているスタッフに相談したり、かかりつけの病院との連携を取りながら健康管理に努めている。必要に応じ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病院との連携を取り合い情報交換を行える様、努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に伴いご家族関係者と連絡を取り合い、相談しながら今後の対応について話し合いの機会を持つようにしている。介護更新時期は特に今後の検討課題を提案するようにしている。	入所時に重度化と終末期のケアに対する指針、マニュアルを基に説明し同意を得ている。重度化した場合、主治医より病状の説明が有り、家族や関係者は話し合い可能な限り、希望に添った支援に取り組んでいる。看取り研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議や勉強会や研修に参加し、急変時の対応について勉強したり書面化（マニュアル化）して、いつでもスタッフが確認・学習できる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、地震想定訓練を消防署協力のもと行っている。運営推進会にて地域の方の協力を得て訓練を行っている。災害時の水や食料の備蓄も行っている。</p>	<p>ディサービスと合同で、年1回は消防署立ち会いで、1回は自主訓練を昼夜想定で火災や地震の避難訓練を実施している。自主訓練には、運営推進会議の出席者も参加し、訓練後には意見をもらっている。災害訓練時に地域住民の協力を要請しているが、十分ではないため、今後の協力体制の構築を検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の言葉を尊重し声掛けや対応に気をつけている。スピーチロックの勉強会も行っている。	利用者の尊厳やプライバシーの確保については、マニュアルが有り、職員会議や研修でケアを振り返り意見交換を行い、適切なケアの実践に取り組んでいる。更衣や排泄・入浴時のケアに関しては人格や羞恥心の配慮し、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせ声掛けし、思いや希望を引き出せるような支援をしている。言葉でうまく言えない方は、表情や態度などから組み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大切に、利用者様の希望を尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人様に洋服を選んで頂いている。外出時などは、おしゃれをし、お化粧品など楽しめるよう工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、茶碗洗いや片付けなど日常的に行っている。中庭の畑に季節の野菜を植え、一緒に育て料理に使っている。誕生日には好きな料理を聞き、行事の時には季節の料理作りをしている。外食に出掛けたり、出前などの利用もある。	その日にある材料を使い、担当の職員が調理し栄養士資格を持つ職員が栄養バランスをみている。菜園や頂いた野菜等も活用して調理している。季節の行事食、手作りのおやつ、弁当持参の外食など、月1回は外食を計画している。家族の協力支援で外食される利用者もいる等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に応じて食べやすい大きさに切る。水分を取って頂けるよう、その方の好む味（甘くする等）に工夫している。チェック表で食事量、排便、排尿などを把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食時には口腔ケアの支援・介助をしている。必要な方には訪問歯科や歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、ご本人のパターンを掴みその人に合った支援を行える様に努めている。誘導の時間やオムツの使用については、職員会議で話し合い統一したケアになるように努めている。	利用者の自尊心に配慮し、排泄チェック表でパターンを把握し、身体状態に合わせた支援に努めている。羞恥心に配慮した声かけに努め、可能な限りトイレでの排泄を支援している。業者のオムツの講習会に参加したり、相談しながら排泄用品の工夫も行って改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者様へは、水分を多く取って頂き、運動や腹部のマッサージを行っている。必要に応じ主治医に相談し、下剤の利用ある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回入浴を実施している。利用者様一人ひとりに合った時間帯やご意見などを考慮し、入浴して頂いている。年に1回温泉へ行き1日ゆっくり楽しんでいる。	週3回午前午後どちらの時間でも、利用者の心身の状態に合わせて個浴での支援をしている。入浴をためらう利用者には、無理強いしないで時間や順番、声かけを工夫して個々に応じた入浴を支援している。全員参加の地域の温泉も楽しみの一つである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状態を把握し、その方のリズムで起床して頂いている。いつでも寝る事が出来るように環境を整え、よく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬が分かる様に処方箋ファイルを作成している。服薬変更時は生活日誌や申し送りにて内容を職員が把握共有出来る様に努めている。また服薬の間違いないようスタッフ間で二重チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動において利用者様の知恵や経験を發揮できる場面を作れるよう努めている。外食やドライブ、誕生会、行事等楽しみを共有し気分転換が図れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入浴日以外はなるべくドライブや買い物に出掛ける。利用者様の体調や天候、季節的な感染症予防など考慮し外出支援している。四季の行事では近場に出掛け昼食や買い物等思い出作りや地域のつながりを持てる様に努めている。	日常的には、利用者の健康状態や天候を考慮して、周辺の散歩・園庭での日光浴、菜園での手入れや近隣への買い物・ドライブを支援している。行事での外出や外食も計画され、家族の協力で一時帰宅・墓参りに出掛ける利用者もいる。外出する事で利用者のリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現金の管理は本人、家族との相談で実施している。管理できない方は施設で預かり、利用者様の力に応じた支援をしている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	電話はいつでも受け付ける。希望時は、特別事情がない限りはいつでもかけることができる。県外の方へは手紙や葉書などで交流されている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節ごとの飾り付けを行っている。環境整備を整え、調理の音や香りなどが家庭的な雰囲気でも過ごせるよう配慮されている。中庭には四季折々の花や野菜があり、季節を楽しんで頂けるよう工夫している。	明るくリビングでは、調理の音が五感を刺激する等、家庭的な雰囲気である。季節の花や行事の写真、手作り作品などが飾られている。事務所を挟んでサービスがあり、利用者との交流も図られている。長く変わっている犬は、利用者の癒しとなっている。廊下にはソファが置かれ、ゆっくりと居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	居室は個室。自由に模様替えや掲示物を飾れるようになっている。家族との面会時やプライベートに過ごす事ができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に自宅で使用していた家具など、馴染みの物を家族に用意して頂いている。仏壇やコタツなど持ってきて頂き、少しでも自宅と同じ環境で過ごして頂けるよう工夫している。</p>	<p>入所前の馴染みの家具や写真・使い慣れた身の回りの物が持ち込まれている。テレビ・仏壇の他、こたつを持ち込まれゆっくりと過ごされる利用者もいる。利用者が安全にくつろげる居室作りを大切に支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室や浴室、トイレなど利用者様が自立した生活が安全にできるように手すりを設置している。場所の表示など行い安全に活動でき自立支援に繋がるよう努めている。ご利用者様の状態に応じ福祉用具を取り入れている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない